

大切なお知らせ

日頃よりTRAVEL FRONTおよび 紺屋 2023 にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この度、TRAVEL FRONTより皆さまへ紺屋2023プロジェクトの今後について3つの大切なお知らせがあり、ご連絡させていただきます。

1. プロジェクトの終了時期変更について

紺屋2023プロジェクトは、当初2008年から2023年までの15年間を目指して始まりましたが、所有者の事情もあり、2021年4月(2020年度)をもって終了致することとなりました。

※プロジェクト終了は建物解体を意味するものではありません。プロジェクトは終了しますが、入居者はこれまでと同じくこの建物を拠点としてそれぞれの活動を行っていきます。詳細は2枚目をご覧ください。

2. プロジェクトの最終企画について

紺屋2023プロジェクトの最後の主催企画として現在、(仮称)konya2023 final year project (仮称)『「未来の雑居ビル」の未来』を企画準備しております。これまで取り組んできたアーティストインレジデンスとゲストディレクタープログラム、アーカイブプログラムを複合的に組み合わせたこの企画を通じて、プロジェクトが未来感を持って終わり、新たな建物の未来へ繋がることを目指します。

※詳細は3枚目をご覧ください。

3. konya-gallery・konya-stay の今後の運営について

昨今の感染症の世界的流行の影響を受け各施設の運営方針の見直しを行い、プロジェクト終了まで運営して参ります。

konya-gallery 利用目的や業種毎のガイドラインを参考に安全面を重視した上で利用を行っていきます。

konya-stay 感染拡大防止を考慮し、2週間単位での利用をお願いすることとします。

最新情報はHP等をご覧ください。

問い合わせ

TRAVEL FRONT / 紺屋2023事務局

〒810-0041 福岡市中央区大名1-14-28 第一松村ビル201

TEL&FAX 092-984-6292

E-mail travel-front@travelers-project.info

URL <http://konya2023.travelers-project.info>



1. プロジェクトの終了時期変更について

ご報告と概略説明

この度紺屋2023プロジェクトは2021年4月をもって終了することとなりました。

紺屋2023プロジェクトは、冷泉荘(2006-2009)、345project(2006-, 企画のみ)につぐ、TRAVELERS PROJECTによる建物再生プロジェクト第3弾として、2009年4月1日第1回夜会をもってグランドオープンしたプロジェクトです(konya-gallery, konya-stayはじめ数部屋は前年に先行オープン)。松村ビル(福岡市中央区大名)の一部を活用し、「未来の雑居ビル」をコンセプトに、カフェスペース、ギャラリースペース、多様なジャンルのディレクターのためのオフィススペースなどとして、2023年3月までの15年間の運営期間を設定した上で、様々なイベントやプログラム・活動などに取り組んできました。

しかし、現所有者の事情により残期間の安定的な運営継続が難しくなり、2023年3月を待たず、2年前倒しで終了することとなりました。詳細な事情の説明は現所有者の希望もあり、控えさせていただきますので、なにとぞご理解ください。

なお、プロジェクト終了後も、現在の入居メンバーは当初の予定通り2023年3月いっぱい賃借する権利を有していますので、すぐに建物が空になったり解体されるわけではありません。施設としては、事務局事務所、konya-gallery, konya-stay等のTRAVEL FRONT直営スペースが利用終了となります。また、この決定は現所有者にとっても不本意なものであり、TRAVEL FRONTと現所有者の関係はなんら問題なく良好なままですので、誤解のないよう申し添えておきます。

当初昨年度末までにはご報告する予定でしたが、先般の感染症世界的流行の影響を受け、今日までリリースすることができませんでした。ご報告が遅くなりましたこと、なにとぞご了承ください。

TRAVEL FRONTとしては、このような難しい社会情勢ではありますが、この残り1年弱の期間を有効に活用し、別紙記載のような最終企画等を進め、2021年4月に無事にプロジェクトの終了が迎えられるよう邁進していくつもりですので、なにとぞ引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



2. プロジェクトの最終企画について

(仮称)konya2023 final year project

(仮称)『「未来の雑居ビル」の未来』

紺屋2023プロジェクトの最終年度企画であるとともに、2021年4月以降の新たな建物の魅力づくりとしても検討。『「未来の雑居ビル」の未来』をコンセプトに、「未来の雑居ビル」の過去を振り返り未来を例示すること、「未来の雑居ビル」の未来を想像・創造することを目指してプログラムA、B2つの企画を予定。本企画を通じて、紺屋2023が未来感を持って終わり、建物の新たな未来が始まることを目指します。

PROGRAM-A アーティストインレジデンス & ゲストディレクタープログラム

空き部屋を開き部屋へ、建物が空くことを建物が開くことへ

紺屋2023が終了し、さらに2023年に向けて、現在入居しているメンバーが順次新たな場所が見つかり次第移っていき、空き部屋が増えていくことが予想されます。通常部屋が空くことは建物にとって雰囲気でも収益面でも良くないとされますが、その価値観を変え、部屋が空いてくことが新たな建物の魅力づくりとなるよう取り組みます。具体的には、退去後の部屋が作品展示・鑑賞等の空間へ変わる仕組みを構築し、残りの2年間へとつなげていきます。

PROGRAM-B アーカイブプログラム

未来へのタイムカプセル

紺屋2023ではこれまで多くの行為・出来事・活動・イベントが発生し、それらが様々な形式と主体によって記録されてきました。それらを時間の許す限り収集し、編集のかかっていないローデータとして未来へ継承できるように保存する活動を行います。最終的にどのようなデータが収集・保存されたかは目録として残し、そのローデータをどのように編集・切り取るかは未来に委ねます。



※写真は過去のイベントのものです。